

取組個票①5年間の取組全体概要

①取組名	取組07	柏ITS情報センターの設立
②対応する目標・課題	<p>・交通実態情報を移動シーンに合わせて様々なアプリケーションを通じて市民や来訪者、行政、災害時にフィードバックすることにより、交通行動を利用者が自らマネジメントできるようにする。・行政では解析・評価された情報を活用して、公共交通ネットワークやTDMの立案、渋滞緩和策(交差点改良, 信号制御)を数値に基いた検討を実施。</p>	
③対応する評価指標・目標値	<p>■評価指標: TDM(交通需要マネジメント)の実践による環境に優しい移動システムへの転換促進;(定性指標のため数値目標無し)</p>	<p>■目標値: 2,378千t(16年度)⇒2,077千t(27年度) このうち50千tを自家用自動車からの削減を図る。</p>
<p>④取組内容 実施主体によって異なる様々な交通情報を統合し、交通情報の可視化、交通対策の検討、事前評価、実践、事後評価を可能とし、交通渋滞やCO2排出等の環境負荷の低減といった地域特有の課題の解決を目指す。大学と行政が連携して地域の交通課題の解決を目指す日本初のセンターとする。 柏の葉地域では、移動情報と別途取得される生活関連情報を連携させることで、交通と生活を一体的に捉えたベストプラクティスを、進行する街づくりに反映させる。</p>		
⑤エリア 柏市域全域。		
⑥主体 柏ITS推進協議会(東京大学ITSセンター、柏市)		
⑦活用した国等の制度		
⑧地域の関与		
⑨スケジュール		
23年度		
24年度	ITSセンター要素技術の検討	
25年度	柏ITS情報センター設立準備	
26年度	東京大学駅前総合研究棟内に柏ITS情報センター設立	
27年度	データ分析開始	
28年度		
29年度以降		
<p>⑩他の取組との連携 取組名: マルチ交通シェアリング・システムの拡充 連携内容: マルチ交通シェアリング・システムと既存の公共交通(電車、バス、タクシー等)の移動データを連携させ、全体交通体系のなかで最適なシステム構築を可能とする。 取組名: 地域の方で街を育てる地域力ポイント制度 連携内容: 電車等の乗車、マルチモビリティシェアリングなどの新交通システムの認証、電子マネーでの買い物など、様々な利用が可能な共通ICカードが構築されることから、様々な移動情報の集約、他の生活データとの連携が容易となり、ITS情報センターの情報蓄積に大きな効果を発揮する。 取組名: 駅周辺5街区のエネルギー管理・節電ナビゲーションを行う『柏の葉・AEMSセンター』のインターフェイスシステム整備 連携内容: データ連携により、交通、エネルギーの枠を超えて、低炭素型の生活、事業活動を総合的に提案し、また緊急時においては、AEMSから電力の優先的供給によりITS情報センターを稼働させ、AEMSと一体となって、地域の情報インフラとして自律都市を支える。</p>		
<p>⑪自立・自律の方針・目標 当該システムが本格稼動することにより、TDM(交通需要マネジメント)施策の効果把握が可能となる。ITS情報基盤システムと可視化技術により毎日の交通状況のチェックが可能となり、市の交通計画のみならず、道路整備、商業施設等に起因する交通変化に関与するシミュレーションが地方自治体自ら適時実施可能となる。 また、パーソントリップデータや今まで個々に実施していた交通量調査、現在蓄積されつつあるプローブデータ等、生きたデータの一元化とフォーマットの統一化が進む。 大学の教育的組織と地方自治体のTDMや交通計画ができることから、両者による運営体制を目指す。将来的には、警察関係、交通事業者にも活用できるよう展開していく。本ITS情報センターは、柏区域内の交通問題のみでなく、他地区からの依頼に基づき、データ解析を行う広域共同利用施設となることで、自律運営の早期化を目指している。日本初のITS情報センターとして有効性を実証し、他地区での設置をサポートし、センター間の効果的連携を図りたい。</p>		